

JRの責任産別として
組織と運動を磨き、
すべての関係者との対話を通じて
強しなやかなJR産業を築こう!

https://www.jr-rengo.jp



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590
FAX (NTT) 03-3270-4429
1部20円(但し組合費に含む)
●発行者/上村良成 ●編集者/宮野勇馬

facebook
JR連合

(旧twitter)
JR連合

JR連合見解をマスコミに説明 活発な議論でJR連合の考え方を浸透

◇財政制度等審議会の指摘
◇過半数代表制等に関わる労働基準関係法制の見直し



報道関係者より寄せられた質問から、関心の深さが伺えた。

「財政制度等審議会の指摘に対するJR連合の見解」では、国の財政制度等審議会が行った整備新幹線、物流政策などの社会資本整備への指摘に対するJR連合の主張をまとめています。

例えば、「整備新幹線の整備新幹線が需要予測を上回ったのは努力や創意工夫の結果」

昨年11月に公表した「整備新幹線が需要予測を上回ったのは努力や創意工夫の結果」

1月14日には、「過半数代表制等に関わる労働基準関係法制の見直し」に対するJR連合見解」を公表した。

厚生労働省は、労働基準関係法制の見直しに向けて、2025年2月から労働政策審議会・労働条件分科会を開催し、過半数代表者選出手続きの厳格化や便宜供与(会社設備の利用や勤務免除等)なども議論してい

こと社会とつながり、結果として産業の成長を実現できるのだ」と自信を持ってさらなる組織強化・拡大に取り組み必要性を強調した。2026春季生活闘争方針

針を含むすべての議案は、執行部答弁を経て満場一致の賛同を得て決定した。そして委員会宣言を承認し、上村会長の団結がばらうで全組合員で活動に取り組み決意を固めた。

今次春季生活闘争も厳しい闘いとなるが、予想されるが、持続可能な魅力あるJR産業を構築するため、JR連合は一致団結して勝利に向け邁進していく。



90人を超える各分科会の代表が参加し積極的な議論を展開

基礎提起では、住吉一家事務局長(労働政策局長)が、直近の社会情勢を共有するとともに、賃金実態調査結果を解説したほか、「ONE TEAMで今年も賃上げ!」のスローガンのもと、連合や交運労働協の方針を軸に具体的な要求を掲げるとする2026春季生活闘争の素案を提起した。

業種別に分かれて議論した分科会別討議では、闘争方針(素案)の是非や素案を肉付けする議論が展開された。各分科会からの報告では、JR連合の闘争方針(素案)に対して一定の理解が示されたが、要求実現に向けて、「人財確保・定着の取り組み」「総合生活改善・福利厚生制度の充実」「価格転嫁・適正取引の推進による賃上げできる環境の整備」など、様々な課題も報告された。

JR連合は、引き続き議論を深め、グループ労組全体の賃金底上げをめざしていく。

また、大会以降新たに加盟した2組合を紹介するとともに、加盟する全97単組が一丸となって、当面するすべての取り組みを展開する意志統一を図った。

吉田祥司副会長(JR九州労組中央執行委員長)の挨拶で始まり、石田原潔中央委員(JR西労組)を議長に選出し議事が進められた。来賓には、交運共済生協から本田雅明専務理事より出席を頂いた。

執行部を代表して挨拶に立った上村良成会長は、責任産別として、JR産業の未来を創る決意のもと、最先課題である安全の確立をはじめ、「2026春季生活闘争」について、多くのグループ会社・協力会社で人財の確保・定着に苦勞しているとしたうえで、「物価上昇を上回る継続的な賃上げは労使の社会的責務」と訴え、連合方針に基づき、定昇相

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。



魅力あるJR産業をつくるため、全97単組がONE TEAMで積極果敢に取り組むことを要請

JRグループ労組連絡会第22回分科会プロジェクト開催し、2026春季生活闘争方針の策定に向け

主権者を代表してあいさつした海上弓彦代表幹事(ジェイアール西日本伊勢丹労組)は、「2026春季生活闘争は、高まった賃上げ機運を単なる一時的なトレンドで終わらせず、今後の継続的・構造的な賃上げへと定着させるための、分水嶺」と認識し、JRグループ全体に、賃上げムードを継続的に波及・拡大させ、すべての働く者の生活向上を実現しよう」と呼びかけた。

基礎提起では、住吉一家事務局長(労働政策局長)が、直近の社会情勢を共有するとともに、賃金実態調査結果を解説したほか、「ONE TEAMで今年も賃上げ!」のスローガンのもと、連合や交運労働協の方針を軸に具体的な要求を掲げるとする2026春季生活闘争の素案を提起した。

JR連合は、1月28日、大阪市内において、第38回中央委員会を開催し、「ONE TEAMで今年も賃上げ!」をスローガンに掲げ、2026春季生活闘争を含む当面する活動方針を決定した。本委員会では、第51回衆議院議員選挙が前日に公示されたことで、政治との関わりを参加者が意識した委員会となった。

また、大会以降新たに加盟した2組合を紹介するとともに、加盟する全97単組が一丸となって、当面するすべての取り組みを展開する意志統一を図った。

吉田祥司副会長(JR九州労組中央執行委員長)の挨拶で始まり、石田原潔中央委員(JR西労組)を議長に選出し議事が進められた。来賓には、交運共済生協から本田雅明専務理事より出席を頂いた。

執行部を代表して挨拶に立った上村良成会長は、責任産別として、JR産業の未来を創る決意のもと、最先課題である安全の確立をはじめ、「2026春季生活闘争」について、多くのグループ会社・協力会社で人財の確保・定着に苦勞しているとしたうえで、「物価上昇を上回る継続的な賃上げは労使の社会的責務」と訴え、連合方針に基づき、定昇相

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。



鉄道運輸機構労働組合と名古屋ステーション開発労働組合の代表者

第38回中央委員会

2026春季生活闘争方針を決定

定昇相当分を含む賃上げ要求1万8000円以上 うち統一ベア要求1万2000円以上

補全員の必勝、JR連合への総結集に向けた組織の充実・拡大に向けた取り組み等について発言があった。

執行部による答弁の後、総括答弁に立った今井孝治事務局長は、統廃する不安全事象に労働組合のチェック機能強化を呼びかけるとともに、2026春季生活闘争については、グループ労組を含めた賃金・処遇改善の重要性を訴えた。また、「JR連合運動に参画する

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。

また、大会以降に新加盟した2組合が紹介され、鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

その後、執行部より、安全の確立、2026春季生活闘争をはじめとする活動方針案が提起された。



「整備が行き届いている集落は、住んでいる人も生き生きしている。熊の被害を」

「JR産業の安全は、信頼だから。昨日と同様に、企業で6%以上を確保するんだよ。」

「26期春闘勝利 JR連合」

早川町長・副町長を訪問 地域活性化ボランティア活動を通じ 地域とのつながりを

12月22日、上村会長と宮野勇馬企画局長は、山梨県早川町の深沢肇町長と長谷川晋吾副町長を訪問し、引き続き保地区の地域活性化ボランティア活動の継続を確認した。

深沢町長からは、JR連合が早川町保地区で年に2回行っている地域活性化ボランティア活動に対して「整備が行き届いている集落は、住んでいる人も生き生きしている。熊の被害を」

「JR産業の安全は、信頼だから。昨日と同様に、企業で6%以上を確保するんだよ。」

「26期春闘勝利 JR連合」

近畿地協第35回拡大幹事会 顔としての役割を果たす

近畿地方協議会は、12月3日に大阪市内で拡大幹事会を開催し、向こう1年間の活動方針などの各議案を協議した。

冒頭の挨拶で上村議長が参加した。

冒頭の挨拶で上村議長が参加した。

東北地協第34回定期委員会 合流を果たした仲間とともに さらなる組織拡大

東北地方協議会は、12月6日に秋田市内で第34回定期委員会を開催し、向こう1年間の活動方針等を決定するとともに新役員を選出した。

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長（イーストユニオン中央執行委員長）は、「12月にも組織拡大を果たすことができた。秋田ではじめからできる提言を続けていこう」と檄を飛ばした。

JR連合からは今井事務局長が参加し、新たな合流した仲間を歓迎するとともに、JR東日本が一流企業であり続けるために労働組合だからこそできる提言を続けていこうと檄を飛ばした。

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長 新たな役員体制のもと、 一丸となって諸課題に対応

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長（イーストユニオン中央執行委員長）は、「12月にも組織拡大を果たすことができた。秋田ではじめからできる提言を続けていこう」と檄を飛ばした。

JR連合からは今井事務局長が参加し、新たな合流した仲間を歓迎するとともに、JR東日本が一流企業であり続けるために労働組合だからこそできる提言を続けていこうと檄を飛ばした。

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長 新たな役員体制のもと、 一丸となって諸課題に対応

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長（イーストユニオン中央執行委員長）は、「12月にも組織拡大を果たすことができた。秋田ではじめからできる提言を続けていこう」と檄を飛ばした。

JR連合からは今井事務局長が参加し、新たな合流した仲間を歓迎するとともに、JR東日本が一流企業であり続けるために労働組合だからこそできる提言を続けていこうと檄を飛ばした。

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長 新たな役員体制のもと、 一丸となって諸課題に対応

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長（イーストユニオン中央執行委員長）は、「12月にも組織拡大を果たすことができた。秋田ではじめからできる提言を続けていこう」と檄を飛ばした。

JR連合からは今井事務局長が参加し、新たな合流した仲間を歓迎するとともに、JR東日本が一流企業であり続けるために労働組合だからこそできる提言を続けていこうと檄を飛ばした。

労働組合の必要性や意義を学ぶ 第24回青年・女性役員研修会



労働組合の必要性を説く上村会長

JR連合は、1月18日・19日の両日、東京都内にて第24回青年・女性役員研修会を開催した。

研修会には全国から28人の青年・女性役員が集まり、JRグループで働く仲間との交流を図りつつ、労働組合の必要性や政治との関わり合いを学んだ。

冒頭、上村会長より「青年・女性役員に期待すること」と題して、自身のこれまでの経験やJR連合の取り組みを交えつつ、労働組合の必要性や意義について講話を行った。

グループディスカッションでは5つのグループに分かれ、会長の講話内容を踏まえ、青年・女性役員の取り組みについて討論を交わし、各グループに設けられた個別テーマ（安全、労働政策、男女平等、組織、教育）に沿って議論した。

単組や職場の違いから多様な意見が出され、参加者は相互理解を深めた。

翌日は場所を移して国会議事堂を見学した。衆議院

の歴史や役割を学ぶとともに、身近に通常国会の開会、そして衆議院の解散総選挙が控えるなかで、より政治を身近に感じ、参画意識を高めた。

見学終了後には、榎葉賀津也JR連合国会議員懇談会会長との意見交換を行い、榎葉会長から、今後の活躍へエールが送られた。

国会議事堂で政治との関わりを再認識する参加者



国会議事堂で政治との関わりを再認識する参加者

すべての議案が確認され、羽野敦之新議長（JR西労組中央執行委員長）をはじめとする役員が選出された。

《新三役》

- 議長 羽野 敦之 (JR西労組)
- 副議長 川原 孝義 (JR西労組)
- 副議長 奥田 浩司 (JR西労組)
- 副議長 福本 哲也 (貨物鉄道労)
- 事務局長 川端 準一 (JR西労組)

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、
次のステージへ

公式キャラクター ビットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

東北地協第34回定期委員会

冒頭の挨拶で齋藤勝彦議長（イーストユニオン中央執行委員長）は、「12月にも組織拡大を果たすことができた。秋田ではじめからできる提言を続けていこう」と檄を飛ばした。

JR連合からは今井事務局長が参加し、新たな合流した仲間を歓迎するとともに、JR東日本が一流企業であり続けるために労働組合だからこそできる提言を続けていこうと檄を飛ばした。

新たな役員体制のもと、一丸となって諸課題に対応していく意思を述べた。

《新役員》

- 議長 齋藤 勝彦 (イーストユニオン)
- 副議長 菅野 一位 (イーストユニオン)
- 副議長 笹渕 太郎 (イーストユニオン)
- 副議長 (イーストユニオン)
- 事務局長 佐藤 孝昭 (イーストユニオン)
- 常任委員 小笠原浩文 (貨物鉄道労)
- 常任委員 柗窪 吉則 (イーストユニオン)

もっとつながろう グループ労組めぐり

私たちJR九州ホテルズアンドリゾーツ労働組合（JRKH&R労組）は、JR九州連合に加盟する労働組合です。

2024年10月にJR九州グループの「JR九州ホテルマネジメント株式会社」「JR九州ホテルズ株式会社」「JR九州ハウステンボスホテル株式会社」「JR九州ステーションホテル小倉株式会社」が合併し、新たに「JR九州ホテルズアンドリゾーツ株式会社」が誕生しました。合併した4社のうち、2社にしか労働組合が存在していませんでしたが、環境の変化に柔軟かつ適切に対応し、現場で働く組合員の不安に寄り添うためには新たな労働組合が必要と考え、昨年4月11日に結成しました。

観光・サービス産業が直面するオーバーツーリズムや労働力不足などの社会問題に加えて、会社合併に起因する様々な課題に対し、私たちは組合員一人ひとりに寄り添いながら、課題の解決・改善をめざし、

JR九州ホテルズ アンドリゾーツ労働組合

私たちがJR九州ホテルズアンドリゾーツ労働組合（JRKH&R労組）は、JR九州連合に加盟する労働組合です。

2024年10月にJR九州グループの「JR九州ホテルマネジメント株式会社」「JR九州ホテルズ株式会社」「JR九州ハウステンボスホテル株式会社」「JR九州ステーションホテル小倉株式会社」が合併し、新たに「JR九州ホテルズアンドリゾーツ株式会社」が誕生しました。合併した4社のうち、2社にしか労働組合が存在していませんでしたが、環境の変化に柔軟かつ適切に対応し、現場で働く組合員の不安に寄り添うためには新たな労働組合が必要と考え、昨年4月11日に結成しました。

観光・サービス産業が直面するオーバーツーリズムや労働力不足などの社会問題に加えて、会社合併に起因する様々な課題に対し、私たちは組合員一人ひとりに寄り添いながら、課題の解決・改善をめざし、

歩を進めていかなければなりません。現在はインバウンド需要の高まりから、ホテル事業の業績も好調に推移していますが、こうした時こそ、社内の安全確立や法令順守に対する意識を高めるべく、働く者の視点からチェック機能を果たすなど、責任ある役割を果たしていく所存です。

結成して間もない組合ではありますが、JR連合の一員として、組合員から信頼される運動を實踐し、JR産業に働くすべての仲間の総結集をめざして日々努力を積み重ねていく所存です。これからも、皆様のご指導、ご鞭撻、よろしくお願い申し上げます。